

CASBEE広島における重点項目の環境配慮設計概要

安古市社宅改築計画

CASBEE 広島 2016年版

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

欄に数値またはコメントを記入

配 慮 項 目			評価点		重み係数		内 訳					
■1.「地球温暖化対策」の推進												
1.1 建物の熱負荷抑制												
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください			3.0	0.25	Q1	室内環境	2	温熱環境	2.1	室温制御	2	外皮性能
日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当である。			4.0	0.75	LR1	エネルギー	1	建物外皮の熱負荷抑制				
小計			3.8	0.14								
1.2 自然エネルギーの利用												
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください			2.0	1.00	LR1	エネルギー	2	自然エネルギー利用				
小計			2.0	0.05								
1.3 設備システムの高効率化												
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。□ BEIm≦0.85を満たしている。			5.0	1.00	LR1	エネルギー	3	設備システムの高効率化				
小計			5.0	0.26								
1.4 設備システムの効率的運用												
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください			3.0	0.00	LR1	エネルギー	4	効率的運用		集合住宅以外の評価	4.1	モニタリング
			1.0	0.00	LR1	エネルギー	4	効率的運用		集合住宅以外の評価	4.2	運用管理体制
			3.0	0.50	LR1	エネルギー	4	効率的運用		集合住宅の評価	4.1	モニタリング
			3.0	0.50	LR1	エネルギー	4	効率的運用		集合住宅の評価	4.2	運用管理体制
小計			3.0	0.10								
1.5 資源・マテリアル対策												
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。□ 節水型便器を採用している。また、躯体と仕上げ材が容易に分別可能である。			4.0	0.10	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.1	節水		
			3.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水等の利用	1	雨水利用システム導入の有無
			0.0	0.00	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水等の利用	2	雑排水等利用システム導入の有無
			2.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.1	材料使用量の削減		
			3.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.2	既存建築躯体等の継続使用		
			3.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		
			3.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		
			2.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.5	持続可能な森林から産出された木材		
			5.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		
小計			3.3	0.31								
1.6 ライフサイクルCO2排出率												
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください ライフサイクルCO2排出率が67%である。			4.1	1.00	LR3	敷地外環境	1	地球温暖化への配慮				
小計			4.1	0.13								
1.「地球温暖化対策」の推進の評価												
			3.8	0.68								
■2.「ヒートアイランド対策」の推進												
2.1 温熱環境の向上												
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。			1.0	0.49	Q3	室外環境(敷地内)	1	生物環境の保全と創出				
			2.0	0.24	Q3	室外環境(敷地内)	3	地域性・アメニティへの配慮	3.2	敷地内温熱環境の向上		
			2.0	0.27	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.2	温熱環境悪化の改善		
小計			1.5	0.97								
2.2 交通負荷抑制												
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。			3.0	1.00	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.3	地域インフラへの負荷抑制	3	交通負荷抑制
小計			3.0	0.03								
2.「ヒートアイランド対策」の推進の評価												
			1.6	0.17								
■3.「長寿命化対策」の推進												
3.1 耐用性の向上												
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 主要仕上材や、空調・給排水管に更新必要間隔の長いものを採用している。			3.0	0.50	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	耐震・免震・制震・制振	1	耐震性(建物のこわれにくさ)
			3.0	0.13	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	耐震・免震・制震・制振	2	免震・制震・制振性能
			3.0	0.08	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	1	躯体材料の耐用年数
			3.0	0.08	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔
			4.0	0.04	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔
			3.0	0.04	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	4	空調換気ダクトの更新必要間隔
			5.0	0.08	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	5	空調・給排水配管の更新必要間隔
			3.0	0.08	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	6	主要設備機器の更新必要間隔
小計			3.2	0.44								
3.2 設備の更新性												
(コメント) ※設計の計画上限段に配慮した事項を記載してください。			3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	1	空調配管の更新性
			3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	2	給排水管の更新性
			3.0	0.10	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	3	電気配線の更新性
			3.0	0.10	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	4	通信配線の更新性
			3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	5	設備機器の更新性
			3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	6	バックアップスペースの確保
小計			3.0	0.56								
3.「長寿命化対策」の推進の評価												
			3.1	0.14								
■重点項目の総平均(上記3項目)			3.3									